

スカイスカイローフ立平 330

施 工 説 明 書

 山内金属株式会社

目 次

第1章 一般事項

- 1. 目 的 1 P
- 2. 工事管理 1 P
- 3. 自主検査 1 P

第2章 仕 様

- 1. 材 料 2～3 P

第3章 施工

1. 施工準備

- 1-1 施工前の確認事項 4～5 P
- 1-2 施工直後の確認事項 5 P

- 2. 施工手順 6 P

3. 施工要領

- 3-1 野地板割付 7 P
- 3-2 野地板張り 8 P
- 3-3 下葺材の施工 8 P
- 3-4 墨出 9 P
- 3-5 唐草取付 9 P
- 3-6 本体の施工 10 P
- 3-7 軒先、棟、隅棟などの納まり 11 P
- 3-8 端部の確認 12 P
- 3-9 屋根の清掃 12 P
- 3-10 自主検査 12 P
- 3-11 チェックリスト 13 P

第1章 一般事項

1. 目的

この説明書は「スカイーフ立平 330」の工事を円滑に、且つ安定した品質を確保する為の施工説明書である。

2. 工事管理

工事は設計図書並びに当施工説明書に基づいて行い、施工上の変更並びに他に支障をきたす場合は、現場責任者に速やかに報告し指示を受ける。


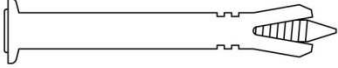

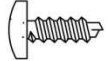

3. 自主検査

工事完了後工事担当者は自主検査を行い、その結果を現場責任者に報告する。

第2章 仕様

1. 材料

区分	名称	品名	適用	
屋根材	本体 (直線部)	直線加工	標準働き幅 330 mm (330~455 mmの範囲で製造可能)	
	本体 (直線部 R 加工)	R 加工	最小曲げ半径 3M 以上 (立リブ入り)	
	本体 (テーパ加工)	テーパ加工品	最小働き幅 130 mm 最大働き幅 370 mm	
	素材	カラーステンレス	0.4 mm	
		タフテン Z	0.4~0.5 mm	
		フッ素樹脂塗装鋼板	0.4~0.6 mm	
		カラーガルバリウム鋼板	0.4~0.6 mm	
	断熱材裏貼り (オプション)	ポリエチレンフォーム	4.0 mm (テーパ加工不可)	
	スカイーフ立平 330 本体断面形状			
エプロン面戸		軒先化粧キャップ		

下葺材	防水シート	アスファルト・ルーフィング	940 以上
		ゴムアス防水シート	片面粘着タイプ 1.0 mm以上
下地材	合板	耐水合板	12 mm以上
	硬質木片セメント板	センチュリーボード	18 mm以上
シーリング	変性シリコン		
緊結材	ビス	《野地板用》（鉄骨下地）	
			
		皿頭リーマタッピングビス 5×35 ステンレス SUS 304	— — — — —
	《野地板用》（RC下地）		
			
P（プラグ）レスアンカー H I L T I	— — — — —		
《役物用》（野地板用）			
			
皿頭リーマタッピングビス 5×32 ステンレス SUS 304	— — — — —		
《役物用》（補強金属板）			
			
ナベ頭ドリルタッピングビス 4×22 ステンレス SUS 304			
リベット		鋼板と鋼板の場合	
			
		ステンレスブラインドリベット φ4.2 アルミブラインドリベット φ4.2	

第3章 施 工

1. 施工準備

1-1 施工前の確認事項

① 仕上材料の確認 使用素材、色調、板厚の確認

- i 使用する素材により製造納期が必要な場合があります。大規模面積や特殊色などの場合は事前に打ち合わせが必要です。
- ii テーパー加工は一般の加工と違いスリッターの後、片側ずつの成形となり納期が必要となります。具体的な納期はその都度打ち合わせとなります。

② 施工条件の確認 屋根勾配、流れ、耐風強度、材料納入条件などの確認

- i 屋根勾配は5/100以上必要です。
- ii 運送は下記の長さ迄チャーター便で出荷が可能です。その際、搬入路のご確認をお願いします。また、受け取り人及び荷揚げ用の天秤棒、レッカー等は貴社でご用意願います。製品は車上渡しとなります。出荷は岡山市からとなり運送費については全額実費請求となります。(運賃については先に見積もりいたします)

車種	最長寸法
4 t 車	6.8m
10 t 車	10.5m
セミトレーラー	*13.0m

iii 現場成形について

上記寸法を超える長さについては現場成形が可能です。但し成形するスペースは無償にてご提供願います。また、加工スペースや日程などの詳細については別途ご相談とさせていただきます。

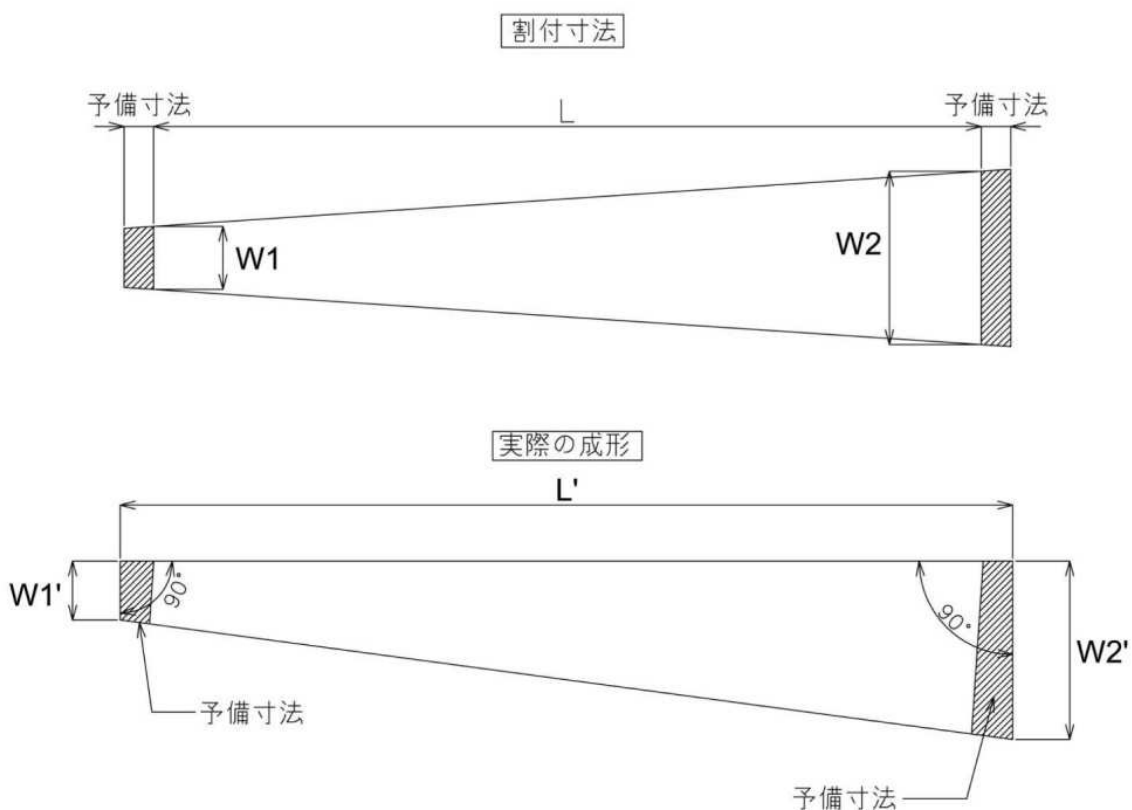
現場成形時のオペレータの派遣は1名となります。長尺成形時の作業員は貴社にて派遣願います。特にテーパー加工は片側ずつの成形となりますので、人数や日数については事前に打ち合わせが必要となります。

③ 割付墨出の確認

直線加工/直線変数加工/R加工/テーパー加工が可能です。テーパー加工は下記を参考に割付して下さい

テーパー加工の加工寸法について

テーパー加工の最小は 130 mm、最大は 370 mm です。テーパー加工は一般の加工と違いスリッターの後、片側ずつの成形となります。具体的にはその都度打ち合わせとなります。テーパー加工の割り付け寸法は下記の図面を参考に、施工店様よりご指示願います。但し実際の成形は 914 幅からの斜めスリッターとなりますので、片側 2 か所は 90 度となります。(下図参考) この成形寸法は、現場にて端部の加工と現地調整の予備寸法を含めた L 寸法と、W1 と W2 の寸法をご指定下さい。ご指示頂きました割り付け寸法に基づき、実際の成型図を作成し成形加工いたします。実際の成型寸法は下図のように L'、W1'、W2' で割付寸法とは若干異なってきます。



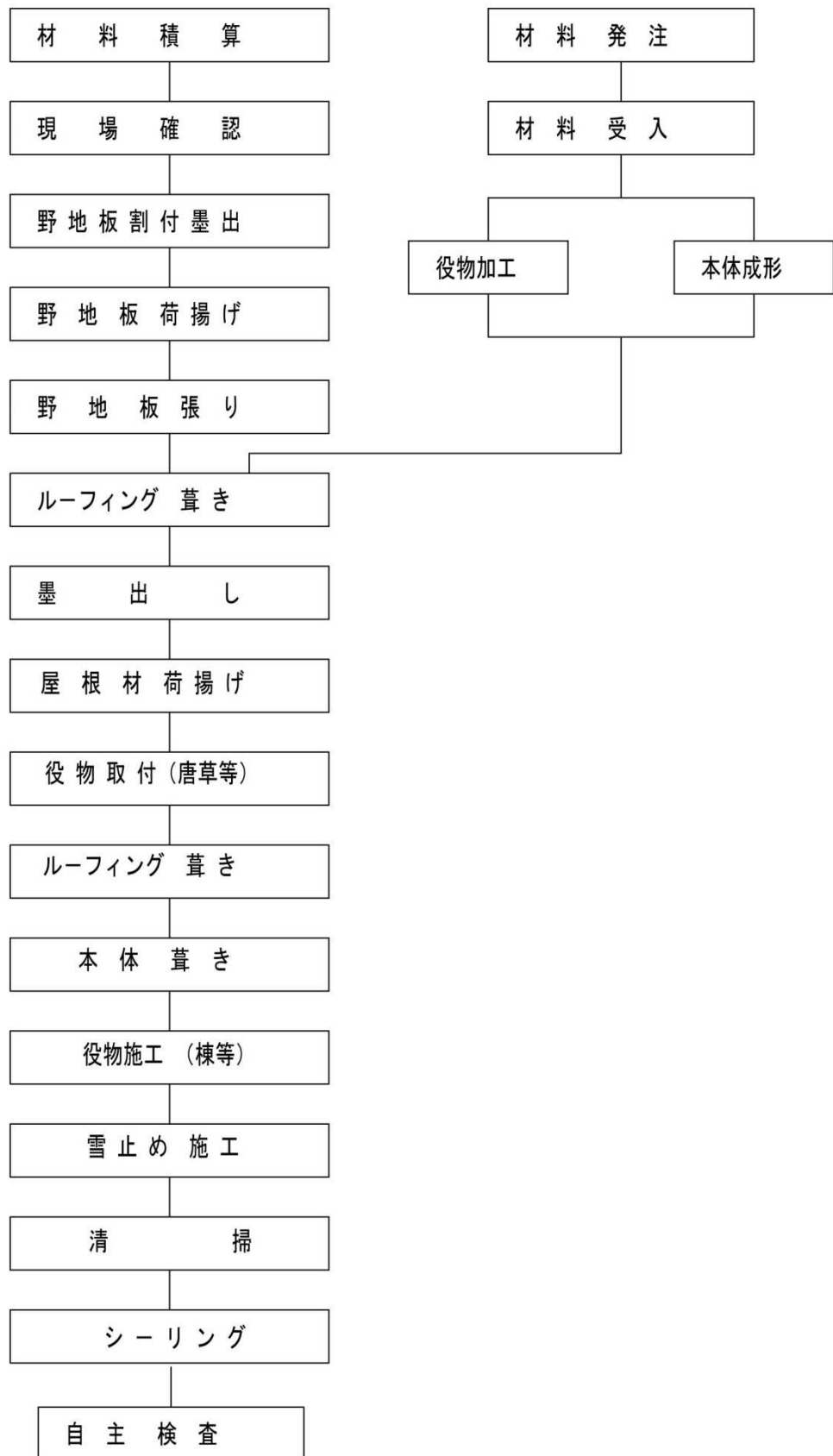
④ 工事範囲の確認

⑤ 軒先・ケラバ、棟、隅棟などの納まりの確認

1-2 施工直前の確認事項

- ① 荷揚げ方法の確認 レッカー及び天秤棒、荷揚げ用帯の確認
- ② 電源の使用可否の確認
- ③ 足場、屋根足場の設置要領の確認
- ④ 下地仕上精度の確認

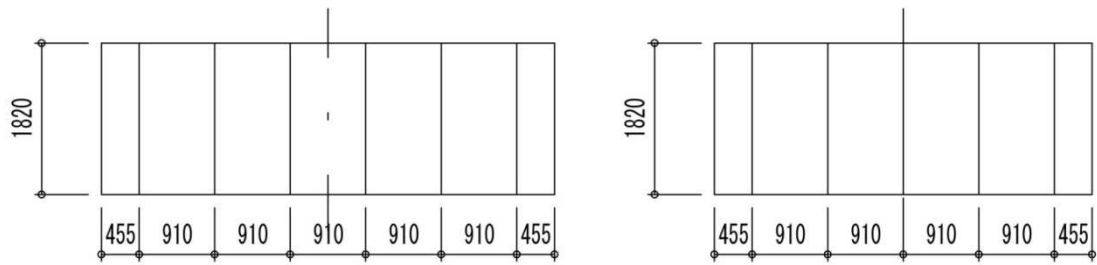
2. 施工手順



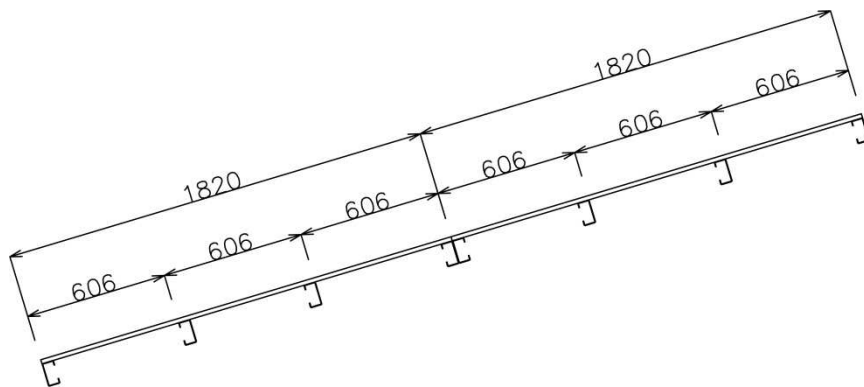
3. 施工要領

3-1 野地板割付

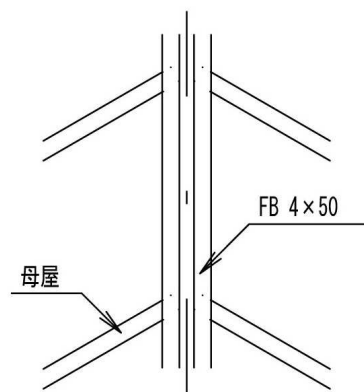
- 野地板の割り付けは次の点に注意して割り付ける。
 - 割付は基準墨を出すため芯割又は芯またぎとする。(下図参照)
 - 両端(ケラバ)部には半切り未満の野地板が入らない。
 - 野地板は縦張りとする。
 - ケラバの出は納まりを考慮して決める。



- 野地板の継手はS造の場合、チャンネルのダブルの位置とする。
木造の場合は455ピッチを標準とする。



- 鉄骨造の隅棟(下り棟)はFB4 x 50を左右に取り付ける



3-2 野地板張り（耐火野地板又は耐水合板）

1. 野地板は基準位置より張り出し、初めの数枚は仮留めをし、通りを確認しながら張り進める。
2. 鉄骨造は耐火野地板をリーマビスで母屋に留め付ける。流れ方向は母屋ピッチ、水平方向は 303 mmピッチにて留め付ける。

木造は垂木に木ビスで留め付ける。流れ方向は 303 mmピッチ、水平方向は垂木ピッチにて留め付ける。

注意事項

1. 野地板の施工時は高所作業なので重大事故につながります。踏み抜き事故防止のため母屋又は垂木以外の部分には乗らないようにし、必ず歩み板、安全ネットを使用して下さい。
2. 野地板は雨水に濡れないように屋内で湿気の少ない平地に保管してください。止むを得ず屋外に置く場合は、下記の事項を厳守してください。
 - ① 直接地面には置かずパレットや角材を用いて飼木をしてください。飼木は寸法の等しい角材を 5 本以上使用してください。
 - ② 必ず防水シートで覆い風に飛ばされないようにしてください。
 - ③ 傾斜地に保管する場合は、必ず角材等で平坦な面を作りその上に保管してください。

3-2 下葺き材の施工

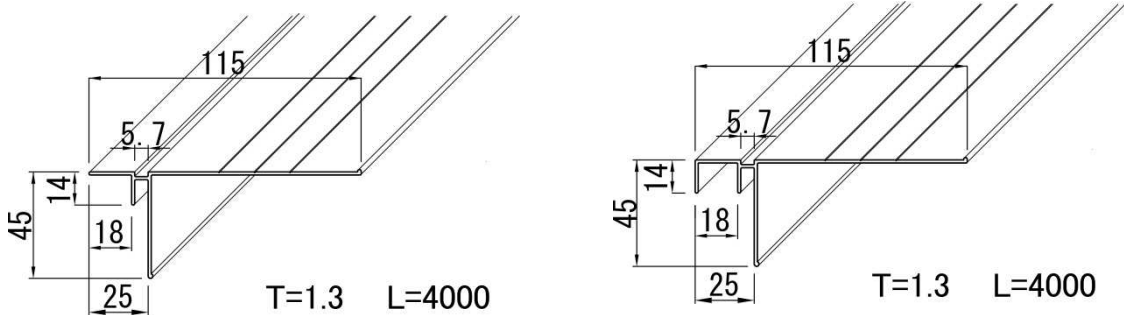
- ① 下葺き材はゴムアス防水シート（片面粘着タイプ）又はアスファルト・ルーフィング 940 以上を使用して下さい。
- ② 軒先より葺き進め隣接するルーフィングの重ね代は、軒先方向（シートの長手方向）は 200 mm、上下は 100 mm以上として弛みや皺の無いように張ってください。

3-4 墨 出

- ① スカイルーフ立平 330 の割付幅（標準 330 mm）に基づき基準墨から割付る。
- ② 中心から左右に割付け、一定間隔ごとに基準墨を設ける。（例えば 10 列×330 mm＝3300 mm）
- ③ テーパー加工の墨出
下地が野地板または合板の場合・・・円周を均等割りして下さい。
鉄骨下地の場合・・・・・・・・・・鉄骨のスパンごとに割り付けて下さい。

3-5 唐草取付

- ① 唐草取付 軒先及びケラバに唐草を取り付ける

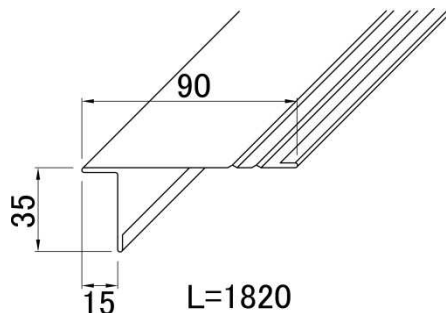


アルミ唐草

アルミ折り下げ唐草

(材質アルミ押出型材 T=1.3 アルマイトクリアーシルバー)

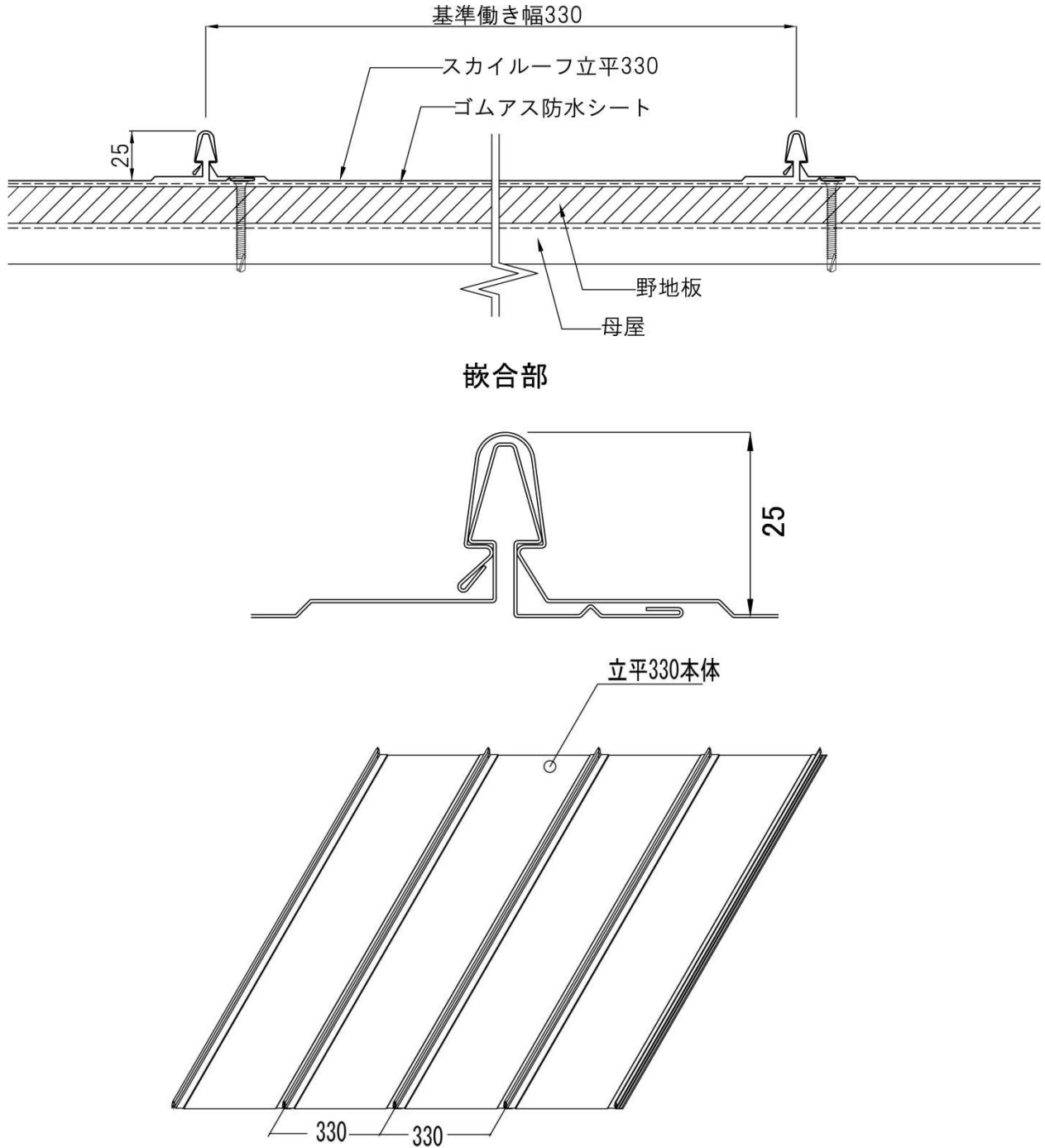
- ② 唐草の取付間隔は下地に@300 mmで固定する
- ③ 唐草のジョイントはガルバリウム鋼板の捨て板 (w=50 mm程度) を敷き込みコーキングにて止水する。
- ④ 屋根材近似色の焼付塗装も可能
- ⑤ 屋根同材での加工も可能



3-6 本体の施工

立平 330 の標準施工

事前に墨出した位置に仮置きして、位置を確認しながらリーマービス等で母屋又は垂木に確実に固定する。嵌合部を変形させないように順次本体を嵌合させて施工します。水上部は立上げ水返しを作ります。軒先部は唐草に掴み込みことを考慮して予備の長さを出しておきます。



注意事項 本体を施工した上に部材等を置く場合は、必ず養生して屋根材に傷をつけないようにすること

3-7 軒先・ケラバ・水切り・棟・標準図

各部詳細図

<p>軒先詳細</p> <p>軒先化粧キャップ アルミ唐草(K-1) (押し型材t=1.3) スカイルーフ立平330 ゴムアス防水シート 野地板 母屋C-100x50x20x2.3 (別途) シンワッシャー5φx40以上</p> <p style="text-align: right;">軒先部</p>	<p>ケラバ詳細</p> <p>現場割付による NEXT@330 アルミ折下げ唐草(K-2) (押し型材t=1.3) スカイルーフ立平330 ゴムアス防水シート 野地板 シンワッシャー5φx40以上 母屋 C-100x50x20x2.3 (別途)</p> <p style="text-align: right;">ケラバ部</p>
<p>水切り水平部詳細</p> <p>外壁材 ケミカル面戸 シーリング (別途) 105 エプロン面戸: 屋根同材 (側面シーリング) 30 雨押え スカイルーフ立平330 ゴムアス防水シート 木下地15x90 (別途) 木下地30x60 (別途) 野地板 C-100x50x20x2.3 (別途)</p> <p style="text-align: right;">壁取り付け部(水平部)</p>	<p>水切り勾配部詳細</p> <p>現場寸法による NEXT@330 外壁 シーリング (別途) 壁取り付け水切り 100 15x90 (別途) 30x60 (別途) シンワッシャー5φx40以上 スカイルーフ立平330 ゴムアス防水シート 野地板 母屋C-100x50x20x2.3 (別途)</p> <p style="text-align: right;">壁取り付け部(流れ部)</p>
<p>棟・隅棟部詳細</p> <p>スカイルーフ立平330 ゴムアス防水シート 30 105 エプロン面戸: 屋根同材 (側面シーリング) 野地板 棟包み: 屋根同材加工 木下地15x90 (支給品) 木下地30x60 (支給品) ケミカル面戸</p> <p style="text-align: right;">棟部</p>	Empty space for diagram

実際の詳細は各現場の施工業者が提出して決定してください。

3-8 端部の確認

- ① 軒先、ケラバ部の掴み込み 耐風性の確保のため確実に掴み込む
- ② 水上部立上げと水上面戸の取付、シーリングの確認

3-9 屋根の清掃

- ① 施工時の鋼板切粉やビスはもらい錆の原因となるので確実に清掃する。
- ② コーキング等の汚れは灯油で清掃する。
- ③ 墨出の汚れは落ちにくいので注意する。

3-10 自主検査

- ① 施工店はチェックリストに従って自主検査を行い、工事担当者に報告する。

3-9 屋根チェックリスト

工 程	チェック項目	チェック
屋根下地	屋根勾配は 5/100 以上	
	耐火野地板の厚さは 18 mm以上、合板は 12 mm以上必要	
	鉄骨及び躯体の不陸調整がされている	
	下地が母屋や垂木に適切に固定されていること	
材料搬入	屋根材に傷、歪がなく搬入されている	
	唐草や水切り等役物が適切な加工である	
	進入路の確認 (4t、10 t、セミトレーラー) 要打合せ	
	現場成形の場合の敷地の確保 要打合せ	
下葺材	アスファルト・ルーフィング 940 以上	
	ゴムアス防水シート (片面粘着タイプ)	
	軒先方向重ね代 200 mm以上	
	上下方向重ね代 100 mm以上	
	皺又はゆるみが生じていないこと	
軒先・ケラバ唐草	指定されたビスで@300 mmで固定されている	
	唐草の上に防水シートが敷かれていること	
屋根材施工	屋根材は指定のビスで確実に固着されている	
	軒先・ケラバは唐草に十分掴み込みされている	
	壁取り合いは 100 mm以上立上げされている	
	水上面戸部の防水処理が完全である	
完了検査	葺き上げ材の傷の有無	
	傷部がタッチアップペイントで適切に補修されている	
	施工マニュアル、施工図通りに施工されている	
	作業終了の清掃	